

第1章 生産管理と作業管理

1. 生産管理の重要性

施設園芸において、これまでは生産規模が小規模であり、また、雇用人数が少なかったために、生産管理は重要視されてこなかった。しかし、次世代施設園芸拠点のような数 ha を超える規模の施設の場合、数十から百名を超える従業員（主として、パート）の統制をとりつつ目標の収量を得るためには、適切な生産管理の実施が必要とされる。どのようなすばらしい施設を利用したとしても、生産管理が適切でない場合には生産性を高めることは難しい。今後、施設の大規模化が進展するのにもない、生産管理の重要性はより高まると予想される。

2. 生産管理の改善のための 5M

施設園芸における生産管理を改善する上で、

人材 (man)	… 組織体制の整備、人材育成など
方法 (method)	… 計画の立案、作業管理など
計測 (measurement)	… 環境計測、制御など
設備 (machine)	… 設備のチェックなど
資材 (material)	… 資材、副資材の使用など

の、英語で頭文字が M である 5 つの項目 (5M、Five M) のそれぞれの適正化が必須である。各項目には、さらに細分化されたチェック項目が存在する。生産管理全体の改善を進めるためには、現在の状況を勘案しつつも、これらの項目をすべて満足できるようにする必要がある。

3. 作業管理

施設園芸における生産管理の中で、作業管理はとくに重要となってきた。ここで、作業を秩序立てて実施するためには、計画 (Plan)、指示 (Do)、確認 (Check)、修正 (Act) で構成される PDCA サイクルを運用することが望ましい。次世代施設園芸拠点では、作業管理のための PDCA サイクルが意識的または無意識に導入されている。ここで、PDCA サイクルを運用する上で、様々なツールが用いられている。計画 (Plan) の部分では、年間計画 (大計画) や月間・週間計画 (中計画・小計画) が表形式で作成され、明示される場合が多い。指示 (Do) の部分では、作業指示書やホワイトボードの利用により、その日の作業内容を従業員に伝達する。確認 (Check) では、従業員が、作業内容や作業にかかった時間、場所などの記録をするためのマップが利用される。これを管理者が把握し、作業の遅れや問題が発生していないか確認する。修正 (Act) の部分では、計画との差異の把握や翌日以降の計画の修正を実施する。生産にかかわる労務費を低減するためには、このような PDCA サイクルの運用により、常に作業の適正化を図る必要がある。

(大山 克己=みのりラボ(株)/大阪府立大学)

参考文献

- 1) 大山克己・田口善勝 大規模になるほど問題となる園芸施設の管理・運営上の課題とその解決法、農業電化 70(1) 17-24
- 2) 大山克己・田口光弘 大規模施設園芸を利用した経営における生産マネジメント(3) 作業管理、農業および園芸 93(10)、印刷中

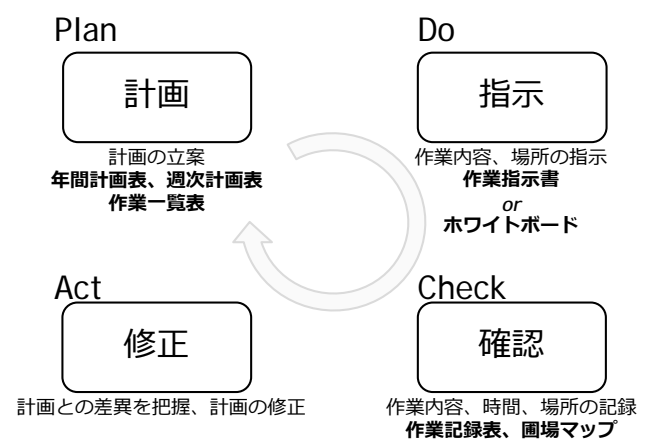


図1 作業計画における PDCA サイクル